

# 平面ベクトルの4つの問題が 一気に解決する定理

そがわ さとる  
十河 悟

## §1. はじめに

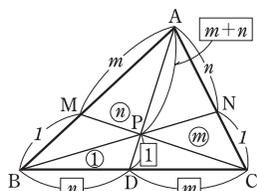
三角形の内部にある点の位置ベクトルを求める問題や、その点と各頂点を結んでできる3つの三角形の面積比を求める問題など、面倒な計算に生徒たちは苦勞していますが、これらを一気に解決する定理を紹介します。

この定理を「十河の定理」として授業で教えると、多くの生徒が拍手喝采し、面倒な計算から解放されると、ほっとした表情を見せてくれます。

## §2. 定理

### 定理

△ABCにおいて、  
辺ABを  $m:1$  に  
内分する点をMと  
し、辺ACを  $n:1$  に  
内分する点をN  
とする。線分BNと線分CMの交点をPとし、  
直線APと辺BCの交点をDとする。  
このとき、次の(1)~(4)が成り立つ。



- (1)  $\vec{AP} = \frac{m}{m+n+1}\vec{AB} + \frac{n}{m+n+1}\vec{AC}$
- (2)  $BD:DC = n:m$
- (3)  $AP:PD = (m+n):1$
- (4)  $\triangle PAB:\triangle PBC:\triangle PCA = n:1:m$

【証明】  $BP:PN = s:(1-s)$  とすると

$$\vec{AP} = (1-s)\vec{AB} + s\vec{AN} = (1-s)\vec{AB} + \frac{ns}{n+1}\vec{AC}$$

$CP:PM = t:(1-t)$  とすると

$$\vec{AP} = t\vec{AM} + (1-t)\vec{AC} = \frac{mt}{m+1}\vec{AB} + (1-t)\vec{AC}$$

$\vec{AB} \neq \vec{0}$ ,  $\vec{AC} \neq \vec{0}$ ,  $\vec{AB} \times \vec{AC}$  だから

$$\begin{cases} 1-s = \frac{mt}{m+1} \\ \frac{ns}{n+1} = 1-t \end{cases}$$

これを  $s, t$  について解くと

$$\begin{cases} s = \frac{n+1}{m+n+1} \\ t = \frac{m+1}{m+n+1} \end{cases}$$

$$\text{よって } \vec{AP} = \frac{m}{m+n+1}\vec{AB} + \frac{n}{m+n+1}\vec{AC}$$

…… (1)

また、 $\vec{AP} = \frac{m+n}{m+n+1} \times \frac{m\vec{AB} + n\vec{AC}}{n+m}$  だから、点Aに関する位置ベクトルを考えると、ベクトル  $\frac{m\vec{AB} + n\vec{AC}}{n+m}$  は辺BCを  $n:m$  に内分する点の位置ベクトルであり、 $\vec{AP}$  に平行だから

$$\vec{AD} = \frac{m\vec{AB} + n\vec{AC}}{n+m} \text{ となる。}$$

$$\text{よって } BD:DC = n:m \text{ …… (2)}$$

$$\text{また、} \vec{AP} = \frac{m+n}{m+n+1}\vec{AD} \text{ なので、}$$

$$AP:PD = (m+n):1 \text{ …… (3) となる。}$$

さらに、 $\triangle ABC = S$  とすると、 $BD:DC = n:m$

$$\text{より } \triangle ABD = \frac{n}{m+n}S, \triangle ADC = \frac{m}{m+n}S$$

$$AP:PD = (m+n):1 \text{ より}$$

$$\triangle PAB = \frac{m+n}{m+n+1}\triangle ABD$$

$$= \frac{m+n}{m+n+1} \times \frac{n}{m+n}S = \frac{n}{m+n+1}S$$

$$\triangle PCA = \frac{m+n}{m+n+1}\triangle ADC$$

$$= \frac{m+n}{m+n+1} \times \frac{m}{m+n}S = \frac{m}{m+n+1}S$$

$$\text{また, } \triangle PBC = \frac{1}{m+n+1} \triangle ABC = \frac{1}{m+n+1} S$$

したがって,

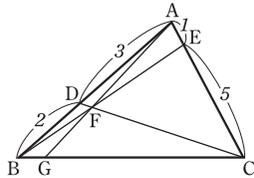
$$\begin{aligned} & \triangle PAB : \triangle PBC : \triangle PCA \\ &= \frac{n}{m+n+1} S : \frac{1}{m+n+1} S : \frac{m}{m+n+1} S \\ &= n : 1 : m \cdots \cdots (4) \end{aligned}$$

**[解説]** AM : MB および AN : NC において, MB と NC の部分の比を 1 にするところがポイントです。こうすることによって, 定理として覚えやすい形になります。

### §3. 応用例題

#### 【例題 1】

△ABC において,  
辺 AB を 3 : 2 に  
内分する点を D,  
辺 AC を 1 : 5 に  
内分する点を E



とする。線分 BE と線分 CD の交点を F とし,  
直線 AF と辺 BC の交点を G とする。  $\vec{b} = \vec{AB}$ ,  
 $\vec{c} = \vec{AC}$  とおくと、次の問いに答えよ。

- (1)  $\vec{AF}$  を  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$  を用いて表せ。
- (2)  $\vec{AG}$  を  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$  を用いて表せ。
- (3) AF : FG を求めよ。

[10 名城大 (3)追加]

**[解]** (1)  $AD : DB = 3 : 2 = \frac{3}{2} : 1$

$$AE : EC = 1 : 5 = \frac{1}{5} : 1$$

$\frac{3}{2} + \frac{1}{5} + 1 = \frac{27}{10}$  だから, 定理より

$$\vec{AF} = \frac{\frac{3}{2}}{\frac{27}{10}} \vec{AB} + \frac{\frac{1}{5}}{\frac{27}{10}} \vec{AC} = \frac{5}{9} \vec{b} + \frac{2}{27} \vec{c}$$

(2) 定理より点 G は辺 BC を  $\frac{1}{5} : \frac{3}{2} = 2 : 15$  に内

分する点だから  $\vec{AG} = \frac{15}{17} \vec{b} + \frac{2}{17} \vec{c}$

(3) 定理より

$$AF : FG = \left( \frac{3}{2} + \frac{1}{5} \right) : 1 = \frac{17}{10} : 1 = 17 : 10$$

**【例題 2】** △ABC とその内部にある点 P が,  
 $7\vec{PA} + 2\vec{PB} + 3\vec{PC} = \vec{0}$  を満たしている。このとき,  
 $\vec{AP}$  を  $\vec{AB}$ ,  $\vec{AC}$  を用いて表せ。また,  
△PAB, △PBC, △PCA の面積の比を求めよ。

[14 関西大・改]

**[解]** 条件より

$$-7\vec{AP} + 2(\vec{AB} - \vec{AP}) + 3(\vec{AC} - \vec{AP}) = \vec{0} \text{ だから}$$

$$\vec{AP} = \frac{2\vec{AB} + 3\vec{AC}}{12} = \frac{1}{6} \vec{AB} + \frac{1}{4} \vec{AC}$$

直線 CP と辺 AB の交点を M, 直線 BP と辺 AC の交点を N とし, AM : MB = m : 1, AN : NC = n : 1 とすると, 定理より

$$\vec{AP} = \frac{m\vec{AB} + n\vec{AC}}{m+n+1}$$

$\vec{AB} \neq \vec{0}$ ,  $\vec{AC} \neq \vec{0}$ ,  $\vec{AB} \times \vec{AC}$  だから

$$\begin{cases} m+n+1=12k \\ m=2k \\ n=3k \end{cases}$$

よって  $k = \frac{1}{7}$ ,  $m = \frac{2}{7}$ ,  $n = \frac{3}{7}$

したがって, 定理より

$$\begin{aligned} \triangle PAB : \triangle PBC : \triangle PCA &= n : 1 : m \\ &= \frac{3}{7} : 1 : \frac{2}{7} = 3 : 7 : 2 \end{aligned}$$

**【例題 3】** △ABC とその内部の点 P があり,  
△PAB, △PBC, △PCA の面積比を 3 : 1 : 2 とする。点 A, B, C の位置ベクトルを  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$  とするとき, 点 P の位置ベクトル  $\vec{p}$  を  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$  を用いて表せ。  
[東北福祉大]

**[解]** 直線 CP と辺 AB の交点を M, 直線 BP と辺 AC の交点を N とし, AM : MB = m : 1, AN : NC = n : 1 とすると, 定理より

△PAB : △PBC : △PCA = n : 1 : m だから

$$AM : MB = 2 : 1, \quad AN : NC = 3 : 1$$

このとき, 定理より

$$\vec{AP} = \frac{2}{6} \vec{AB} + \frac{3}{6} \vec{AC} = \frac{1}{3} \vec{AB} + \frac{1}{2} \vec{AC}$$

したがって  $\vec{p} - \vec{a} = \frac{1}{3}(\vec{b} - \vec{a}) + \frac{1}{2}(\vec{c} - \vec{a})$

ゆえに

$$\vec{p} = \left( 1 - \frac{1}{3} - \frac{1}{2} \right) \vec{a} + \frac{1}{3} \vec{b} + \frac{1}{2} \vec{c} = \frac{1}{6} \vec{a} + \frac{1}{3} \vec{b} + \frac{1}{2} \vec{c}$$

**【例題 4】**  $t$  を正の実数とする。三角形 OAB の辺 OA を 2 : 1 に内分する点を M, 辺 OB を  $t : 1$  に内分する点を N とする。線分 AN と線分 BM の交点を P とする。

- (1)  $\vec{OP}$  を  $\vec{OA}$ ,  $\vec{OB}$  および  $t$  を用いて表せ。  
 (2) 直線 OP は線分 BM と直交し, かつ  $\angle AOB$  の二等分線であるとする。このとき, 辺 OA と辺 OB の長さの比と  $t$  の値を求めよ。  
 [14 東北大]

**【解】** (1)  $2+t+1=t+3$  だから定理より,

$$\vec{OP} = \frac{2}{t+3}\vec{OA} + \frac{t}{t+3}\vec{OB}$$

- (2) 直線 OP と辺 AB の交点を Q とすれば, 定理より  $AQ : QB = t : 2$

直線 OQ は  $\angle AOB$  の二等分線だから

$$AQ : QB = OA : OB = t : 2$$

直線 OP は線分 BM と直交し, かつ  $\angle MOB$  の二等分線だから点 P は線分 BM の中点である。

$$\text{したがって } \vec{OP} = \frac{\vec{OM} + \vec{OB}}{2} = \frac{1}{3}\vec{OA} + \frac{1}{2}\vec{OB}$$

$$\vec{OA} \neq \vec{0}, \vec{OB} \neq \vec{0}, \vec{OA} \not\parallel \vec{OB} \text{ だから } \begin{cases} \frac{2}{t+3} = \frac{1}{3} \\ \frac{t}{t+3} = \frac{1}{2} \end{cases}$$

よって  $t=3$

以上から  $OA : OB = 3 : 2, t=3$

**【例題 5】**  $\triangle OAB$  があって,  $OA=6, OB=4, AB=8$  である。 $\triangle OAB$  の内心を I とすると,  $\vec{OI} = \square \vec{OA} + \square \vec{OB}$  である。

[東京理科大・改]

**【解】** 直線 BI と辺 OA の交点を M, 直線 AI と辺 OB の交点を N とする。

線分 BM は  $\angle ABO$  の二等分線だから

$$OM : MA = 4 : 8 = \frac{1}{2} : 1$$

線分 AN は  $\angle OAB$  の二等分線だから

$$ON : NB = 6 : 8 = \frac{3}{4} : 1$$

$\frac{1}{2} + \frac{3}{4} + 1 = \frac{9}{4}$  だから, 定理より

$$\vec{OI} = \frac{\frac{1}{2}}{\frac{9}{4}}\vec{OA} + \frac{\frac{3}{4}}{\frac{9}{4}}\vec{OB} = \frac{2}{9}\vec{OA} + \frac{1}{3}\vec{OB}$$

#### §4. おわりに

数研通信 No. 86 に岐阜県立長良高等学校の臼井先生が類似の定理を発表しておられましたが, 私は以前から比の値が同じところを 1 に固定したものを使っています。これにより交点の位置ベクトルだけでなく, 面積比なども覚え易い形になります。

この定理により, ベクトルの一次独立性を使った面倒な計算から解放され, 問題によっては暗算でも解答が得られる優れた定理だと自負していますが, マークシート形式のテストでは問題ないものの, 記述試験においては, 周知の定理ではないために減点されてしまうのではないかと心配しています。

(山口県 野田学園高等学校)